研　究　成　果　報　告　書

2026 年　4 月　6 日

１．所属・職・氏名　等

教養学部地域社会学科・准教授・田開寛太郎

２．研究課題（テーマ）名

都留市および周辺地域に適合した環境教育教材の開発と実践に向けた基礎的研究

３．研究期間

2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日

４．利用した研究費の種類及び金額

若手教員研究促進交付金　100,000 円

５．研究の概要

2024 年度には、都留市およびその周辺地域に関する情報収集を進め、地域の教育関係者や行政等とのネットワークを広げることができた。今年度（2025 年度）は、それらの成果を踏まえ、これまでの教育研究に基づいて開発した「高校地理総合科における環境教育としての GIS 教材」を改良し、実用的なツールとして完成させることを主な目標とする。

教材の制作にあたっては、印刷会社への業務委託を行い、視覚的に分かりやすく、教育現場で活用しやすい形に仕上げる。なお、この教材はもともと長野県飯田市での活用を想定して作成されたものであるが、今年度はその内容の汎用性を検証し、山梨県立都留興譲館高等学校をはじめとする近隣の高等学校との連携を通じて、教材の内容を都留地域向けに検討・調整する。

６．研究成果等

本年度は、１）高校「地理総合」における活用を想定した GIS 教育パッケージの汎用化、２）都留市織物業の歴史と文化をテーマとした教育実践・ESD の検討、の２点を中心に研究を進めた。

１）高校「地理総合」に対応した GIS 教育パッケージの汎用化

高校「地理総合」に対応して開発した、GIS を活用した全 3 時限構成の「地図を読んで気づくことを焦点とした ESD カリキュラムパッケージ」について、市内外の一般的な高校においても汎用的に活用可能かを検証することを目的とした。その一環として、高校現場で扱いやすいパンフレット型ガイドブックを新たにデザイン・作成した。

作成したガイドブックおよび教材ツールを用いて、「ローカル SDGs 指標マップ ESD」を実践し、その教育的効果および教材の使い勝手を検証した。また、長野県飯田市の高校教諭と

の検討会を２回実施し、実践上の課題や改善点について意見交換を行い、ガイドブック内容の精査・改訂を行った。

本研究成果については、日本環境教育学会年次大会（釧路）において共同発表を行った。また、都留市内での本格的な導入に向けて、都留市や都留興譲館高校校長等へ教材説明を行い、活用の可能性について意見交換を行った段階にある。今後の展望としては、教科担当教員や市役所関係部署等とも連携し、地域全体での活用可能性を検討していく予定である。

２）都留市織物業の歴史と文化をテーマとした教育実践の検討

都留市織物意匠「藤紘」の職人および関係者へのヒアリングを重ね、伝統技術を活用した教育実践の可能性を探究した。地域文化資源を次世代へ継承する環境教育的アプローチとして、物語性を重視した表現方法に着目し、子どもにも分かりやすく楽しく伝える手法として人形劇の活用を検討した。

具体的には、生涯学習講座の一環として、長野県飯田市のNPO法人いいだ人形劇センターのスタッフより助言・指導を受けながら、「藤紘」の物語を題材とした教育的プログラム（人形劇）の構想を進めた。

また、本研究の成果は、卒業論文（地域社会学科４年 中野優羽）としてまとめられ、本学科紀要『地域研究』に研究論文「伝統工芸品から考える地域文化の教育的価値―都留市の紋織物意匠『藤紘』を事例に―」として投稿した。さらに次年度の実践に向けて、藤紘関係者および谷村第一小学校へのヒアリングを実施し、人形劇を通して都留織物産業の歴史を伝える具体的な教育実践の検討を進めている。

３）地域連携の基盤形成

以上のように、都留市および周辺地域に適合した環境教育教材の開発と実践に向けた基礎的研究を推進した。加えて、地域における環境教育の実践と研究の基盤形成を目的として、「第２回つる環境教育マルシェ」（於：フィールドミュージアム）を開催予定である。

特別公開シンポジウムでは、都留市および周辺地域における高校の探究活動の成果報告会を実施する。具体的には、都留興譲館高校による能登半島地震ボランティア活動の成果報告、富士吉田インターハイスクール「かえる舎かえる組」による探究活動報告、さらに県外から参加する高校生（長野県飯田市）による探究成果の共有を予定している。これらを通して、地域内外の実践を結び、今後の環境教育推進に向けた基盤づくりを図る。

７．研究の実績（論文・発表　等）

発表

1) 田開寛太郎、「湿地教育における自治体と学校・大学の連携可能性の検討 ―ラムサール条約登録湿地を事例に―」、日本環境教育学会 第36回年次大会、2025年10月12日（釧路）、口頭発表

2) 浜泰一・田開寛太郎・松井晋作、「大学フィールドワーク授業における大学間連携 ―エコツアーの計画・実践とその評価―」、日本環境教育学会 第36回年次大会、2025年10

月 12 日（釧路）、口頭発表

3) 原理史・田開寛太郎・杉田暁・松村顕司、「GIS を活用した地理総合授業における ESD 実践 ー「ミステリーワークショップ」を組み込んだ普通科高校での授業研究ー」、日本環境教育学会 第 36 回年次大会、2025 年 10 月 12 日（釧路）、口頭発表

4) 田開寛太郎、「日本的環境教育―日本環境教育的特色及未來發展―」、第 1 回台湾自然関連財務情報開示国際フォーラム、2025 年 9 月 18 日（台湾）、招待講演

※現在、GIS を活用した地理総合授業における ESD 実践に関する論文を投稿中である。